

昨年11月から城郭交流資料テスト版を配信し、情報を提供していますが、平成25年1月からの城郭資料交流センター発足に際し、その目的について、明確にして置きたいと思えます。

- 1) 城郭研究が隆盛を迎える中、城郭資料、文献、特に調査報告書の入手が困難になりつつあります。全国に報告書を扱う古書店は15軒ほどありますが、城郭専門店はありません。本来、神田に設立すればいいのですが、家賃、人件費、交通費で月40-50万円かかり、採算が取れると思えません。さらに、首都直下型地震のリスクを考えると、東京の古書店は壊滅するように思えます。本センターは研究者の相互救済を目的とし、城郭資料の流通を促します。
- 2) 日本城郭近畿学生研究会の際の城郭文献総目録の作成と研究調査が富原文庫の城郭報告書収集の目的ですが、昭和30年代に年間数冊であった城郭資料も現在は新刊書店に行くと200-300冊並んでいます。啓蒙としての城郭解説書や入門書が氾濫している中、東京都の悉皆調査のように学術書で基本図書であっても非売品です。城ブームと言われる中にありながら、研究環境は劣悪です。非売品の報告書は一般に公開されない教育委員会や博物館の倉庫に寄贈され眠っています。図書館に寄贈される場合は閲覧できますが、それらは再度、市場に流れ、研究家の手にされることはありません。
- 3) ネットや、新古書店の影響で出版環境は危機に瀕しています。売れないから、部数が150とか、300しか刷れない。そのため、価格が高い、価格が高いため売れない、売れないものはリサイクルされ、古書店に廻る。売れる物は部数が少ないため、すぐ絶版になる。これらの入手は古書店に頼るしかないが城郭文献の専門店がない。
- 4) 古書業界もネットの影響で報告書が売れず、廃業や報告書の買い取りが控えられています。報告書を買ってくれるところがなくなりつつあります。一方、非常に高価で高止まりしています。提供いただく価格の倍以上、一部は5倍、10倍で売られています。研究者が売りたい価格と買いたい価格で処分できる市場が必要です。安ければいいというわけでもありません。それぞれの買値がありますので、損をする必要はありません。無償で提供いただき、熱意のある図書館に公開用に寄付している場合もあります。古書店は引継ぎができず、後継者不足で1代限りのところが多く、廃業される例が多くあります。熱意のある

書店の廃業は打撃です。此の10年で、毎月、数十冊買っていた書店も廃業しました。

- 5) 古絵図や錦絵を購入している関係で、日本全国の古書店から、毎週のように目録が届き、全国の古書店の城郭資料の在庫状態はほとんど把握しています。従って、提供資料になれば、その資料を持っている古書店を紹介することも可能です。城絵図の例でいえば、価格的に折り合わず買えないだけで、全国的に数100枚の城絵図、古城絵図はいつでも購入可能です。「支那城郭の概要」のように、この20年、姿を見ない資料もありますが。
- 6) 富原文庫の城郭資料は、此の52年の間に、書庫を大阪市内、西宮、茨木、金沢、板橋、安中と移動し、一時は東西書庫としていたためのダブリ在庫があり、此の20年ほどは多忙であり、珍しい文献はすべて買っていたこと、安中に文庫設立後も県別に収納していたため、今回リタイヤして日夜、城郭文献室を整理してみると、報告書によっては、ないと思い購入して、数冊出てくるものがあり。1県で数10冊の貴重書が出てくるありさまです。これらを提供いただいた報告書ともに提供することが可能になりました。
- 7) 現在、昭和時代までの城郭文献の90%は書庫に収納しています。この5年を目処に、整理を完了し、城郭文献総目録を編纂します。古代の城柵と海外の文献は除外です。目録完成後の研究に関係のない城郭報告書は研究者に提供し、文庫は研究資料として必要なものと、古絵図、地図、絵葉書、錦絵等近年の印刷物、書籍でない、オリジナルのみにすることを考えています。
- 8) 個人の蔵書は再流通しますが、今の古書業界の城郭資料の受け入れ態勢は不十分です。安い売り物にならないものは破棄処分にされます、研究者が生きておられるときは価値がわかりますが、ほとんどの研究家の蔵書の末路は悲惨です。多くの城郭研究家の旧蔵書を市場で買い取っていますので、よく理解できます。鳥羽蔵書のように公共機関に引き取られ、活用される例はまれです。
- 9) 平成24年6月、64、5歳でリタイヤし、交流サイトを立ち上げましたが、このようなことが出来るのもおそらく、5年、70歳までです。それまでに代わりにやってくれる方か、城郭専門古書店が出来なければ、元の黙阿弥ですが、今の古書業界は研究者が希望の条件で蔵書を処分できる環境にありません。城郭専門書店ができることが願いです。若くて起業される方、いかがですか。城郭文献を適正に評価し、買い取り、販売する。理想ではありませんか。

- 10) 研究者のみなさん、座して不要城郭文献の死を待つか、次の世代にゆだねるか、よく考えてみてください。城郭報告書の流通市場は城郭研究世界のために必要です。行動しなければ、何もしないのと同じです。